

刑務官を志望したきっかけ

高校・大学の先輩が、刑務官として仕事に剣道に活躍されていることを知り、私も刑務官を志望しました。また、高校時代、刑務官の方のところに下宿しており、親しくしていましたので、刑務官は身近な職業でした。



刑務官になってよかったと感じたこと

刑務官は、犯罪をした者又は罪を犯したおそれのある者を、社会から切り離して処遇するという、社会の安心・安全を確保する仕事であることに使命感があります。また、武道訓練を通じて多くの方々と出会い、好きな剣道にも打ち込めて、よかったと思います。

現在の仕事内容

「警備指導官」として、矯正研修所で研修員に対して、矯正護身術や警備用具の使用等について指導しているほか、剣道の指導もしています。また、矯正内部の全国武道大会（柔道・剣道）の企画・運営にも携わっています。



警備指導官のやりがい

現場施設の一員として勤務できるように、研修員を指導することが私の使命ですが、研修員が一人前の職員になって、現場施設で活躍している姿を目の当たりにしたときや、伝え聞いたとき、大変うれしく思います。

刑務官としての経歴

刑務官になって35年目です。地元の刑務所で採用されて、夜勤からスタートし、いろいろな工場の担当、作業部門、警備係を経て、18年目に警備指導官になりました。矯正管区の警備指導官を16年間務め、現ポストは2年目です。

上司や先輩、同僚の支えがあって全国大会において成績を残すことができたので、警備指導官になれたと思っています。

武道経験が生かせたと思うこと

矯正護身術やその他の訓練でも、**体力的に全く不安がなかったのは武道経験のおかげ**です。また、武道経験により、上司や先輩に対する尊敬の念も自然に備えていたように思います。



勤務施設での武道訓練

各施設に道場が整備されており、そこで武道訓練を行います。夜勤の日は参加できませんが、それ以外は十分な訓練ができたと感じています。また、各施設に指導者がおり、初心者から上級者まで、**厳しくも和気あいあいとした雰囲気の中で稽古**しています。

武道大会への参加について

大会等への参加に当たっては、施設の皆さんの**激励の言葉**や、**壮行会や祝勝会**の開催、大会に出られるよう勤務交代等の配慮をしていただいたこともあり、ありがたく感じています。



今後の目標

警備指導官という職員を指導する立場で勤務するようになり、矯正施設の多くの職員の方々と接する機会が増えました。また、勉強すべきことが増えて最初は大変でしたが、『教えることは学ぶこと』と捉えて、充実した時間を過ごすことができました。

武道を通じて、自分自身の修練や人間形成は当然のことながら、それと同じように、後進の育成と人材の発掘を目標としています。



刑務官として武道を生かしたい方にメッセージを！



仕事では、自分の**努力次第で様々なポストに就くことができます。**そして、一番素晴らしいと思うのが、**全国の施設に道場があり、武道訓練を行える**ことです。刑務官の団体戦・個人戦日本一を決める大会も行われており、仕事にもやりがいを感じながら、武道訓練にも打ち込めます。

全日本選手権大会や国体等の全日本クラスの大会に出場している選手も多数います。

ぜひ多くの方々に刑務官を目指してほしいです。